

フクシマを繰り返すな！ 原発の再稼働は許さない！

第39回公害総行動にのべ2600名が参加する

■福島原発被害訴訟を支援するフクシマ現地調査が昨秋11月と今春4月、2回取り組まれた。第2回は4月5～7日、第39回公害総行動のプレ行事として位置づけ、「原発と人権」交流研究集会と結んでおこなわれた。この企画は相乗効果を発揮し、参加者も93名と大幅に増え、深刻で複雑な被害に向き合う現地調査として充実した内容となった。

■その直後の4月11日、まるで福島原発事故などなかったように3・11以前に逆戻りさせる原発帰りの「エネルギー基本計画」が閣議決定された。公害も温暖化も原発もない日本に変える、未来ある社会のエネルギーへの転換を求める第39回公害総行動に大きな力を与える福井地裁判決が5月21日に出された。大飯原発の運転停止を命じた！

原発が抱える本質的な危険を認め、憲法にもとづく「人格権」を最優先させるべきという司法の判断であり、福島原発被害をふまえたフクシマを繰り返すな！原発再稼働は許さない！という国民の声、公害被害者の叫びが司法に届いた。

■第39回公害総行動は6月4～5日の二日間、のべ2600名が参加して環境大臣交渉を皮切りにして霞ヶ関昼デモ、東電・政府交渉、日比谷公会堂の総決起集会、東電前抗議行動など8つの行動をたたかい抜いた。暴走する安倍政権に立ち向かい、福島原発被害者とミナマタ・大気汚染・アスベスト・薬害・基地公害などすべての公害被害者が心をひとつにして自らの被害を訴え、最大・最悪の公害であるフクシマを繰り返すな！すべての公害被害者の救済・公害の根絶を！最大の環境破壊・人権侵害の戦争をする国づくりをやめろ！と要求した。○東電・政府交渉には300名が結集。席が足りずフロアに座り込む。怒りに溢れた交渉は3時間半に及び同席した東電・政府各省（経産省・環境省・文科省・厚労省・復興庁）を厳しく追及した。東電は「20ミリベルト以下は健康に影響ない。人権侵害にあたらぬ」「原状回復は一企業には過酷」ととんでもない開き直りの回答に終始。同罪の政府は「20ミリベルト」「世界一厳しい規制基準」「国富に流出」問題について回答不能。再交渉をおこなうことになっている。○公害総行動メインといえる総決起集会には1350名が参加、福島原発をはじめとする公害被害者と多くの市民が熱く連帯した。日比谷公会堂の舞台には生業・いわき・首都圏の被害者100名以上が登壇、集会を力強く盛り上げた。

■そしていま、来年6月3～4日の歴史的な節目の第40回公害総行動にむけた継続的な運動を続けている。フクシマ現地調査は今秋に第3回（10月4～5日）来春に第4回（4月11～12日）の日程を決め、準備を始めている。

（全国公害総行動実行委員会事務局担当／公害・地球環境問題懇談会事務局長 清水 滯）